

# 松本市中心市街地における都市施設分布と 街路ネットワークからみた歩行回遊性の評価

令和3年2月 芹澤恭輔

## 要旨

### 目的

日本の地方都市では、依然として自動車依存社会であり、松本市も例外ではない。そこで本研究は、ウォークブル推進都市に指定された松本市中心市街地を対象に、都市施設分布と、循環バス利用を考慮した街路ネットワークからみた歩行回遊性の評価を行い、今後の地域の賑わいづくりの発見につながる知見を得ることを目的とした。

### 方法

国土地理院が公開する基盤地図情報（道路縁、建物ポリゴン）を用いて、街路ネットワーク（道路中心線）を作成し、GISおよび現地調査の結果を参考に建物に属性を与えた。次にモデリングツール Rhinoceros で動作する『Urban Network Analysis（以下、UNA）』ツールを用いて、街路ネットワークの指標（Reach、Gravity、Straightness、Betweenness、Redundancy Index）を求め、都市施設分布と、循環バス利用を考慮した街路ネットワークからみた歩行回遊性の評価を行った。そして、今後のまちづくりの検討を行った。

### 結論

都市施設分布を考慮した解析から、全ての指標において、高い値や低い値を示した場所を確認した。松本市中心市街地では、近年開業した大規模な松本イオンモールや、松本城前付近の駐車場や空き地により、指標に大きな影響を与えていることが分かった。また、賑わいの連続性と、歩行回遊性の向上のためには、松本城前付近や中町通りから松本イオンモールに続く街路の重要性が明らかになり、今後の松本市中心市街地のまちづくりにおける一つの方向性を示すことができた。さらに、循環バス利用を考慮した分析から、縄手通りの北側の地区は、歩行回遊の冗長性をもった地区であることが分かった。

指導教員 藤居 良夫 准教授